

普及センターだより

# くりはら

## 第 139 号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

〒 987-2251 栗原市築館藤木 5-1  
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)  
0228-22-9437 (先進技術班)  
FAX 0228-22-6144  
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp  
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khgsin-n/>

### 宮城県栗原農業改良普及センター



「平成 29 年度栗原地域農業経営セミナー」

栗原市内の農業者、農業法人が将来を見据えた土地利用型農業の経営改善について学びました。

新規就農者がズッキーニのハウス栽培を行い、出荷開始期を昨年より 15 日早めることに成功しました。



「生産拡大に向けたほ場巡回指導」

## ≡ 作る/造る/創る/そしてつくる...4つの「つくる」を支援します ≡

“つくる”と読む3つの言葉があります。

- 作る**... 稲を作るとか野菜を作るといったときに使います(稲作、野菜作りなど)。
- 造る**... 比較的大きな建物や大量にものをつくる時に使います(建造や製造、造園など)。
- 創る**... ゼロの状態から何かを新たに生み出すときに使います(新商品を創る、需要創造など)。

私たち普及指導員は、農業生産の基本技術、新技術の普及・定着を図るための作目別の専門技術を基本として、農業の「作る」を支援しています。

また、補助事業等による大規模な生産設備や農地整備事業のような生産基盤を「造る」場面において、事業導入段階での計画作りや経営収支、運営等の助言・指導等で技術・経営面から支援をしています。

そして農産物の生産だけにとどまらず、自ら生産した農産物の直売や、加工して二次・三次産業向けに販売したりサービスを提供したりする6次産業化への取組で、新たな付加価値を生み出すよ

うな「創る」取組みを支援しています。

こうした生産、流通・加工、販売・サービスに取組む人材を育成する「人づくり」が4番目の「つくる」です。特に近年の少子・高齢化による担い手の減少の中で、新たに農業に就農する若者に対する営農確立に向けた支援や女性農業者、新たに6次産業化に取り組もうとする農業者等への支援、さらには、担い手の高齢化や人口減少により活力が低下しつつある中山間地域において、持続可能な地域づくりを目指す中での農業の支援など「農業においてチャレンジする人」の支援を通じて人づくりを進めていきます。

普及活動のモットーは「普及指導員が直接農業者と接する」活動によって、地域農業の発展や農業経営の改善を図ることです。本年度も普及指導計画に基づき、この4つの「つくる」を念頭に活動を進めてまいりますので、よろしくお願いします。

所長 門脇正好

農地中間管理事業を活用しましょう



## プロジェクト課題紹介



### 「農地整備を契機とした集落営農モデルの再構築」

栗原市内には、品目横断的経営安定対策等を契機に組織された集落営農組織が36組織あります。これらの組織は、法人化目標を有しているものの、十分なきっかけ等がなかったことから、任意組織のまま約10年間を経過してきており、計画的な機械装備等の更新や増強、中・長期的営農ビジョンによる経営発展が得られていない状況にあります。

このような中で、集落営農組織が具体的な法人化を目指すきっかけの一つとなるのが農地整備事業です。若柳地区の沼田・八木地区では平成28年度に農地整備事業（受益面積59ha）が採択され、基盤整備関連経営体育成等促進計画では今後担い手に約7割を集積する目標を設定しており、このうち八木地区では、集落営農組織「八木営農組合」を母体とした担い手法人に農地を集積する計画があります。

八木営農組合は、市内の多くの集落営農組織と同様に平成19年設立の集落ぐるみ型組織ですが、上記促進計画を契機に平成29年度から役員を中心に法人設立の具体的な検討が始まりました。平成30年2月の通常総会では法人設立準備委員会が組織されることになり、3月28日に第1回の準備委員会が開催されました。今後は、市内の集落営農組織の法人化モデルとできるよう、八木集落での法人の位置づけや具体的な法人形態、より収益性の高い営農品目の導入などの検討・整理に関して支援を実施します。



法人化相談会の様子

### 「中山間地域における小果樹類の生産性向上及び新商品開発」

中山間地では、古くから少量多品目を栽培する農林業が行われてきましたが、高齢化率の高い地域を中心に、地域コミュニティそのものの存続が危機を迎えている集落の増加が懸念されます。

花山地区で古くから栽培されてきた「ふさすぐり」は、収穫調整の手間等の問題があるものの、新たな特産品開発等による高付加価値化を図ることにより、地域の維持・活性化のきっかけとなる可能性があります。また、需要の増加で新たな植栽が進めば、遊休未利用地対策の一つとなり得ます。

さらに、花山地区では、持続可能な地域づくりを目指す「小さな拠点づくり推進協議会」や「地域おこし協力隊」が活動しており、住民が主体となって地域を運営する体制の構築を目指す動きもあります。

本課題では、ふさすぐりをきっかけとした中山間地の活性化モデルを構築し、中山間地農業の維持・伝承

と「農業+X（エックス）」を職業とする人材の確保・育成を目指します。

平成30年度は、ふさすぐりの新商品開発と販路拡大の可能性を見極め、地域連携によるブランドの育成と認知度向上を図るとともに、新規植栽と収量向上を推進します。



ふさすぐり定植会の様子

### 「新技術導入による大豆の収量・品質の高位安定化」

栗原市の大豆作付面積は県全体の約1割を占めており、土地利用型作物では水稻に次ぐ主要品目です。

しかし近年の単収を見ると、栗原市は県平均以下となっています。大豆を作付けする経営体は、農業法人や地域の担い手となる大規模農家、集落営農組織が多く、経営上重要な品目として作柄の高位安定化が必要です。

栗原市内の大豆栽培上の課題は、固定転作ほ場が多いことから、地力低下や連作障害が発生していること、排水不良田での転作が多いことから、作業の遅れや湿害による生育不良を原因とする収量低下がみられます。

平成29年度から、これらの課題を解決し栗原市内の大豆の収量と品質を高めるため、大豆栽培における適期作業、問題解決技術の実施支援や、排水対

策として浅層暗渠やカットドレーン施工、連作により発生しやすいシストセンチュウ対策として緑肥播種、作業遅れによる低収量対策として狭畦播種等の新技術について、実証・展示を行っています。昨年度は、品質は概ね良好だったものの収量が夏期の日照不足等のため伸び悩んでしまいました。今年度は引き続き新技術

の実証・展示や現地検討会を開催し、各種技術の普及拡大を図り、大豆生産者の収量の高位安定化を支援していきます。



「カットドレーン（mini）」による穿孔暗渠施工



NO.4

## 「ズッキーニの安定生産と産地の育成に向けて」

栗っこ農業協同組合、栗原市、普及センターでは、平成 27 年度からズッキーニの特産化を目指して「Z 600 プロジェクト」(Z =ズッキーニ、作付面積 6ha = 600a を目指す)を立ち上げました。平成 27 年産では作付面積 7ha に達し、平成 28 年度からは新たに「Z-1 プロジェクト」(作付面積 10ha、将来の販売額 1 億円を目指す)を立ち上げ、平成 29 年産の作付面積は約 10ha になりました。将来的には作付面積 22ha、販売金額 1 億円を目標に生産拡大と産地 PR 等を進めています。

本課題では、平成 28 年度から 30 年度の 3 年間、「栗っこ農業協同組合ズッキーニ部会」を対象に、栽培技術が安定し目標とする収量・所得が確保されること、産地 PR 活動によりズッキーニが栗原の特産品となることを目標とし、安定した供給力のある産地への成長を支援します。

平成 30 年度は目標達成に向けて、①関係機関の連携による部会活動の強化、②展示ほの設置などによる栽培技術の向上と平準化、③地元飲食店でのズッキーニ料理キャンペーン開催等による産地 PR 活動の推進を中心に支援活動を実施します。



ズッキーニ視察研修で栽培技術を学ぶ



NO.5

## 「新規就農者の基本技術習得と就農モデル経営体の確立」

全国的に新規就農者が増加し、栗原市内においても年間 10 ~ 20 人程度が就農しています。

新規就農者の中には生産に関する基本技術や経営管理に関する知識が十分ではなく、計画どおりの生産や所得の確保に苦慮している事例も見られます。

このような状況を踏まえ、今後の新規就農者のモデルとなる優良経営体の育成を目的に、経営開始から 3 年以内の新規就農者 4 経営体を対象に、生産技術の更なる向上やそれに伴う高品質な農産物生産、経営管理等について支援を行います。

活動の中では「P D C A サイクル(プラン・ドウ・チェック・アクション: 事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ)」に基づき、作付け前の検討から中間管理も含めた、生産から販売までを一工程として捉え、その必要性の理解と実行をとおして生産性向上と経営管理能力向上を支援します。また、

普及指導員からの支援のみならず、指導農業士の方々をはじめとした地域の先進的農業者等の協力をいただき、生産や販売について実践的な指導支援も行います。

近い将来、あとに続く新規就農者から「あの人のようになりたい」と目標にされる農業経営者の育成を目指し、この活動をとおして新規就農者の成長を支援します。



一迫地区 新規就農者のトマト養液栽培の様子

## 新たに就農を希望する方は「農業次世代人材投資事業(旧 青年就農給付金事業)」を利用できます

農業次世代人材投資事業(旧 青年就農給付金事業)は、次世代を担う農業者となることを志向する方に対し、就農前研修を後押しする資金【**準備型(年間150万円, 2年以内)**】及び就農直後の経営確立を支援する資金【**経営開始型(年間最大150万円, 5年以内)**】を交付する事業です。

事業を活用するには様々な要件がありますので、詳細は普及センターにご確認ください

### 農業次世代人材投資事業 (旧 青年就農給付金事業)

#### 農業次世代人材投資事業(準備型)

次世代を担う農業者となることを目指し、県農業大学校等の農業経営者育成教育機関や先進農家・先進農業法人で就農に向けて必要な技術等を習得するための研修を受ける場合、原則として 45 歳未満で就農する者に対し、年間 150 万円を最長 2 年間交付

#### 主な要件の抜粋

- ・ 研修終了後、独立・自営就農する場合は就農から 5 年以内に認定新規就農者になること
- ・ 国内での 2 年間の研修に加え、海外研修を行う場合は交付期間を 1 年間延長

#### 農業次世代人材投資事業(経営開始型)

次世代を担う農業者となることを目指す者の経営確立を支援するため、人・農地プランに位置付けられ、原則として 45 歳未満で独立・自営就農する認定新規就農者に対し、市町村を通じ年間最大 150 万円を最長 5 年間交付。(前年の所得に応じ、交付金額は変動)

#### 主な要件の抜粋

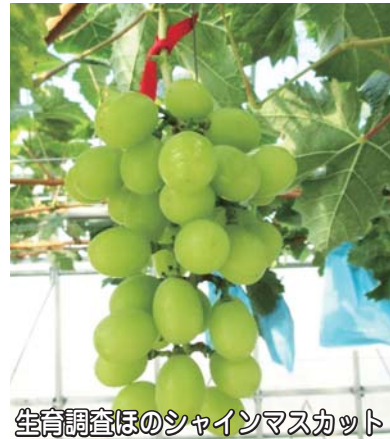
- ・ 交付終了後は、交付期間と同期間営農を継続すること
- ・ 交付 3 年目に経営確立の見込み等について中間評価を行い、支援方針を決定

# 育苗ハウスでぶどう (シャインマスカットなど)を栽培しませんか

ぶどうの栽培は、果樹の中でも様々な作業管理があり、その中でも摘粒などの細かい作業管理が必要ですが、育苗ハウスを利用した雨よけ栽培では、自家結実性なので1本からでも栽培することができます。また、栽培技術がマニュアル化されてきており、これまでより気軽に取り組むことができます。

ぶどうは、色や大きさなどで多くの品種があります。その中でもシャインマスカット(写真参照)は、国の果樹試験場で育成された品種で、果皮色が黄緑色で、マスカットの香りがします。皮ごと食べられる品種で、近年は生産量、消費ともに増加している人気の品種です。

新たに栽培する場合は、水はけや土質など、ほ場状況や栽培に要する労力面等を確認した上で導入することが大切ですので、興味がある方は普及センターへ御相談ください。また、既に栽培に取り組んでいる方も、栽培管理や防除等についてお気軽に御相談ください。



生育調査ほのシャインマスカット

## 今年本格デビューする だて正夢の栽培管理基準

いよいよ今年本格デビューを迎える「だて正夢」は高価格帯の銘柄米として育成するため、生産者、農業団体、販売事業者及び行政が一体となったブランド化の取組を推進することとしています。登録生産者が栽培管理を行う際に遵守すべき、水稻新品種「だて正夢」栽培マニュアルの要点は以下のとおりです。

① 塩水選は比重1.08(もち品種並)、浸種と催芽の時間は「ひとめぼれ」と同程度、箱当たり播種量は「ひとめぼれ」より10%程度減らします。

② 移植時期を平坦部で5月15~20日頃とするため、播種時期は4月20~25日頃とします。

③ 有機物や土づくり肥料を用いて土づくりを積極的に実施します。基肥窒素量は「ひとめぼれ」と同程度とします。

④ 平坦部では5月15~20日頃の晩期栽培とし、8月10日頃の出穂を目標とします。

⑤ 追肥は減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用します。

⑥ 葉・穂いもち防除は「ひとめぼれ」に準じます。カメムシ類の防除は、出穂期が「ひとめぼれ」より1~2日遅くなることに留意します。

⑦ 出穂期以降の積算平均気温1,000~1,100℃を目安に収穫します。充実した玄米を確保するため、調製のふるい目は1.9mmとします。

宮城県では、「だて正夢」を「みやぎ米」の4本柱の一つとして、来年度も作付拡大を推進します。

## 「暑熱対策に 取組みましょう」

夏は、暑熱ストレスにより採食量や受胎率の低下等が引き起こされます。家畜の生産性維持のためには、快適な環境作りが大切です。

### 家畜の適温域と生産限界温度

	適温域(℃)	生産限界温度(℃)	
		低温	高温
乳牛	0~20	-13	27
肉用繁殖牛	10~20	-10	30
哺乳子牛	13~25	5	32

### 暑熱対策 畜舎環境の対策

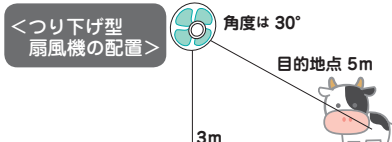
- 畜舎外から畜舎温度を下げる
  - ・遮光ネットやよしずによる日よけ
  - ・屋根裏・壁・床への断熱材の設置
  - ・屋根への散水・消石灰の塗布
    - \*ドロマイト石灰の2倍溶液(20kgに対して水40L)を塗布したところ、屋根裏温度が5℃下がった事例もあります(鳥取県普及所)。

- 畜舎内から畜舎温度を下げる
  - ・換気扇や扇風機による畜体への送風

#### 風速による体感温度の変化

環境温度(℃)	風速(m/秒)	体感温度(℃)
28	0.5	23.8
	1.0	22.0
	2.0	19.5

- ・扇風機の配置
  - \*一方向に空気が流れるよう配置し、首から肩付近に風が当たるよう調整しましょう。



### 暑熱対策 飼養管理の対策

- ・飼養密度の緩和、毛刈りによる熱の放散促進
  - \*毛刈りにより体温が0.3℃下がる効果が確認されています(栃木県畜産酪農研究センター)。
- ・飼料給与回数を増やし、涼しい時間帯に給与
- ・粗飼料は細断して食べやすくする
- ・ビタミンやミネラルの追給
- ・水槽やウォーターカップの清掃
  - \*水量は、複数台同時使用で4L/20秒出れば十分な量です。

土づくりを実施しましょう

## 新規就農者紹介 ～再びの「耕英開拓」, 若い伝承者～

◎氏名：佐々木智さん(昭和60年生まれ) ◎経営内容：露地野菜(大根) 200a

栗駒地区耕英で、「高原大根」復活の一翼を担う新規就農者を紹介します。

智さんはJAの職員として、地域農業発展に向けたサポート役を担っていましたが、10年間の勤務を通して農業の魅力やその重要性を再認識し、平成29年6月に就農しました。

同年に耕英地区に農地を確保し、昨年の試作を経て今年から本格的に大根栽培に取り組みます。

生産する大根は市場出荷やJA直売所での販売の他、ほ場周辺での「直売」も計画しており、耕英地区の高原大根の産地復活が期待されるそうです。

また、会長に就任した栗原4Hクラブでは、地域内で課題となっている「鳥獣害対策」に取組、その実態把握や「わな猟免許」の取得も果たし、地域の方々と協力し、イノシシ捕獲にも挑戦しています。

周囲の方々の好意にも恵まれ、積極果敢に挑戦するその姿は、今後、地域内農業者の牽引役となることが期待されます。



## 有限会社 耕佑がGAP関連の表彰事業で、東北農政局長賞を受賞しました！

平成30年3月13日(火)に、国の仙台合同庁舎で「平成29年度東北ブロック未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の表彰式・事例発表会が開催され、栗原市一迫地区の「有限会社耕佑」がGAP(※)部門で東北農政局長賞を受賞しました。

本コンクールは、農林水産省が、持続可能な農業の確立を目指して意欲的に経営や技術の改善等に取り組んでいる農業者等を表彰するために実施しており、平成29年度から「有機農業・環境保全型農業部門」に加えて、「GAP部門」が新設されています。

授賞式当日は、有限会社耕佑を含め東北農政局長賞を受賞した6経営体、生産局長賞を受賞した2経営体がそれぞれの活動事例を発表し、情報交換が行われました。

今回のコンクールにおける有限会社耕佑の受賞

は、GAPの活用に関するこれまでの努力と、地域への大きな貢献が認められた結果であり、栗原地域のGAPの普及と持続可能な農業の先導役として、大いに期待されています。

※(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)



### 平成30年7月より、「農業経営収入保険」の加入申請が始まります。

農業経営収入保険は、ほぼ全ての品目を対象に、自然災害だけでなく価格低下も含めた農業収入全体の減少に備えた保険です。青色申告を行っている農業者(個人・法人)が対象となります。詳しくはお近くの農業共済組合へお問い合わせ下さい。

H30		H31	H32
5月~6月	7月~11月	12月	1月~12月
加入申請受付 個別相談		保険料・積立金の納付	保険期間 保険金等の請求・支払

### 農業簿記基礎研修会のご案内

普及センターでは、農業資産の管理や経営の改善、高度化のために複式簿記を始めたいと考えているの方々のための研修会を開催します。

初心者向けに複式簿記記帳の基礎について解説するほか、市販のパソコンソフトを使う場合の記帳方法のポイントについても説明します。

開催時期は7月を予定していますが、詳細については後日改めてご案内します。

# 平成30年度 農業振興部及び農業改良普及センター職員紹介

<平成30年4月1日現在>



技術次長  
(経営支援担当)【畜産】

鹿野 裕志



農業普及指導専門監  
【作物】

堀内 保昭



技術副参事兼次長  
(総括担当)【花き】

鈴木 宏



部長  
栗原農業改良普及センター所長【作物・総営】

門脇 正好



技術次長  
(総括担当)【野菜】

菅原 克哉

## 先進技術班

TEL:0228-22-9437



技術主幹  
【花き】

佐藤 英典



技術主幹  
【野菜】

降幡 泰永



技術次長  
(班長)【果樹】

佐々木 圭悦



技術次長  
【作物】

早坂 浩志



土壌分析パート

千葉 勢子



技師  
【野菜】

稲垣 ゆほ



技術主査  
【作物】

宮本 武彰



技師  
【畜産・総営】

小野 愛実

## 地域農業班

TEL:0228-22-9404



技術主幹  
【作物】

三上 雄史



技術次長  
(班長)【野菜】

寺島 英樹



技術主幹  
【畜産】

小野寺 伸也



技師  
【果樹】

内藤 秀哉

## 地域調整班

TEL:0228-22-2268



主査

谷地森 將隆



次長  
(班長)

千葉 俊秀



主査

野村 正利



技師

横山 裕美



主事

熊谷 宏之

## <主な業務>

### 【地域調整班】

- ◇ 農地中間管理事業
- ◇ 経営所得安定対策
- ◇ 農業振興地域整備
- ◇ 農地法
- ◇ 農業金融
- ◇ アグリビジネス関連事業
- ◇ 土壌汚染対策
- ◇ IFOAアーム農産物県認定制度

### 【地域農業班】

- ◇ 地域農業振興計画の推進
- ◇ 地域営農ZFMの確立支援
- ◇ 多様な担い手の確保育成
- ◇ 新規就農者等の育成

### 【先進技術班】

- ◇ 生産技術改善
- ◇ 農業経営改善
- ◇ 主要農作物の種子生産
- ◇ 農業労働改善
- ◇ 農業制度資金
- ◇ 農業安全指導
- ◇ 環境に配慮した農業の普及

農業生産工程管理(GAP)に取り組みましょう